鶴岡工業高等曹	門学校	開講年度	平成30年度 (2	1018年度)	授業科目	国語 I
科目基礎情報						
科目番号	0009			科目区分	一般 / 必	修
授業形態	授業			単位の種別と単位数	数 履修単位	: 3
開設学科	創造工学科(化学・生物コー	·ス)	対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	3	
教科書/教材	大修館書店『 明解国語辞典	国語総合改訂版 (第7版)』	現代文編』、大修館	館書店『国語総合改	訂版古典編』、	準拠学習課題ノート2冊、三省堂『新
担当教員	加田 謙一郎					
到達日煙						

- 1. 論理的な文章を読み、論旨を理解・要約し、意見を表すことができる。また、文学作品を読み、作者の意図を的確に汲み取ることができる
- 。 2.古文・漢文を読み、自国の異なる時代の文化や異なる国の文化の一端を理解し、自己の考えを深めたり広げたりできる。 3.科学・技術等に関する課題に対して、情報を収集し、それを的確に分析・理解し、口頭発表できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	論理的な文章を読み、論旨を理解・要約し、意見を表すことができる。また、文学作品を読み、作者の意図を的確に汲み取ることができる。それを通して読書習慣を身につけることができる。	論理的な文章を読み、論旨を理解・要約し、意見を表すことができる。また、文学作品を読み、作者の意図を的確に汲み取ることができる。	論理的な文章を読み、論旨を理解 ・要約ができない。また、文学作 品を読み、作者の意図を汲み取る ことの必要性を理解できない。
評価項目2	古文・漢文を読み、自国の異なる時代の文化や異なる国の文化の一端を理解し、自己の考えを深めたり広げたりできる。それを通じて、身近な問題に関して、他者のありように理解を示す姿勢を持つことができる。	古文・漢文を読み、自国の異なる 時代の文化や異なる国の文化の一端を理解し、自己の考えを深めた り広げたりできる。	古文・漢文を読み、自国の異なる 時代の文化や異なる国の文化の一 端を理解できない。
評価項目3	科学・技術等に関する課題に対して、情報を収集し、それを的確に分析・理解し、口頭発表できる。 多角に敵に課題を把握し、物事の プラス面とマイナス面を公正に理解することができる。	科学・技術等に関する課題に対して、情報を収集し、それを的確に分析・理解し、口頭発表できる。	科学・技術等に関する課題に対して、情報を収集し、それを的確に分析・理解できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本授業の主目標は、他者とのコミュニケーションの基本となる日本語能力の、総合的な向上を図ることである。具体的な副目標は次の3点である。1 「情報を正確に受け取る力」(〈聞く能力〉および〈読む能力〉)育成。2 「情報を正確に伝達する力」(〈書く能力〉および〈話す能力〉)育成。3 コミュニケーションの基本となる協調性の涵養。課題提出・小テストは目標達成のため、適宜行う予定である。国語辞典は各自用意すること。
授業の進め方・方法	基本的に講義形式で進める。またグループワークを中心とした演習形式の授業もある。
注意点	授業はあらかじめ、予習をしてから臨むこと。ノートは必ずとること。なお、国語辞典(紙媒体・中学校で使用したものも可)は各自用意すること。

事前・事後学習、オフィスアワー

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	ガイダンス	国語Ⅱを受講する目的、到達目標を説明できる。
		2週	表現(一)自分を振り返ってみよう	新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや 考えを整理するための手法を実践できる。
		3週	表現(二)自分を振り返ってみよう	同上
		4週	表現(三)他者と話をしてみよう	合意形成のために会話を成立させることができる。
	1stQ	5週	評論(一)「富士山のカタチ」	文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについ て考えを深め、広げることができる。
		6週	評論 (二) 「	同上
		7週	評論(三)「自由な主体に必要な『尋ねあい』」	同上
前期		8週	評論(四)「人は独創的でありたいか」	論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に 理解できる。また、それに対する独自の意見を持つこ とができる。
		9週	理学者Xからの手紙(一)	グループワークを行い、議論の前提条件を明示できる。
		10週	理学者Xからの手紙(二)	複数の情報を整理・構造化できる。
		11週	理学者Xからの手紙(三)	課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順 で考えなければならないことを知っている。
	2ndQ	12週	古典入門(一)「児のそら寝」	古典読解を通して、古典文学に親しみ、個人の生活を 偲ぶことができる。
		13週	古典入門(二)「絵仏師良秀」	同上
		14週	古典入門(三)「猿、恩を知ること」	同上
		15週	古典入門(四)「竹取物語」	同上
		16週		
後期	3rdQ	1週	小説 (一)「羅生門」	小説を読み、コミュニケーションに必要な「聴く・読む」ことの基本姿勢を学び、実践できる。
		2週	小説(二)「羅生門」	同上

4個			3週	小説	(三)「羅生		同上			
20日 10日 10			4週	表現	(四)「羅生	門」の推薦文を書いてみよう	推薦文の書き方を学ぶ。「構成メモ」を作成し、実際 に推薦文を書く準備ができる。			
1982 1983			5週	表現	(五)「羅生	門」の推薦文を書いてみよう	小説の情景描写・心理描写を 活用して推薦文を書くことが	まとめ、「構 できる。	成メモ」を	
20回	6週 評論 (:			評論	(五)「他者	を理解するということ」	相手の立場や考えを尊重して しての思いや考えをまとめる	相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団と		
10回 表現(穴)自分の趣味を紹介してみよう			7週	評論	(六) 「空気		-		-	
10回 表現 (穴) 自分の加速を紹介してみよう 級の公司を入事数との要集(課題)を認識するための情報 接頭 表現 (に)自分の適成を紹介してみよう 建酸に対した。「バスター」を製作できる。 12回 資産 (穴) 「知る」にとと「なかる」こと 薄壁できる。また、清理的は文章の代表的構成法を理解できる。また、清理的は文章の代表的構成法を理解できる。また、清理的は文章の代表的構成法を理解できる。また、清理的は文章の代表的構成法を理解できる。 15回 分裂 (八) 「自身を人間的係をとあして考える」 文等的文章(小学や政力に関われた人物やものの見が表現していまり。 方面 大型内容 子型内容 子型内容 子型内容 子型内容 子型内容の課題目標 子型内容 子型内容 子型内容 子型内容の課題目標 子型内容 子型内容の課題目標 子型内容の課題目標 子型内容の課題を表示した。 本語的な文章(論説や呼音)の構成や理由を影響ととらえ、要約で 2 会も、企業の対象を提出を表示した。 表記して、企業の認め 全地の対象を表示した。 表記して、企業を表示した。 本語の企業を表示した。 本語を表示した。 本語を表示した。 本語の主意を表示した。 本語の主意を表示した。 本語を表示した。 本語を表示した。 本語を表示した。 本語の企業を表示した。 本語を表示した。 本語を表示した。 本語を表示した。 本語を表示した。 本語を表示した。 本語の公室(年報・メール)を、相手や目的に応じた体裁やも句と 本語の公室(年報・メール)を、相手や目的に応じた体裁やも句と 本語の公室(年報・メール)を、相手や目的に応じた体裁やも句と 本語の公室(年報・※メール)を、相手や目的に応じた体裁やも句と 本語の公室(年報・※メール)を、相手や目的に応じた体裁やも句と 本語の公室(年報・※メール)を、相手や目的に応じた機関である。 2 本語の公室(年報・※メール)を、相手や目的に応じた体裁やも句と 本語の公室(年報・※文のの)を含まるを表示して、まのが効率的に行っる。 本語の公室(年報・※文のの)を含まるを表示して。 本語の公室(年報・※文のの)を含まとができる。 2 本語の公室(年報・※文のの)を含まとができる。 2 本語の公室(年報・※文のの)を含まとができる。 2 本語の公室(年報・※文のの)を含まとができる。 2 本語の公室(年報・※文のの)を含まとができる。 2 本語の公室(年報・※文のの)を含まとが言る。 2 本語の公室(年報・※文のの)を含まとができる。 2 本語の公室(年報・※文のの)を含まさいできる。 2 本語の公室(年報・※文のの)を含まる。			8週	漢文	入門(一)		漢文の特色を知り、訓読の決	まりを理解す	る。 する。 するための情 る。 するための情 る。 情を客観的に 情構成法を理 物や述べること グ 授業週 後15	
### 11回 表現 (七)自分の趣味を紹介してみよう			9週	漢文	入門 (二)故	『成語				
### 4thQ			10週	表現	(六) 自分の	趣味を紹介してみよう	あるべき姿と現状との差異(i 報収集ができる	果題)を認識す	るための情	
### (1.1) (別る)ことと 指揮性できる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。また、論理的な文章の代表的構成と対していまた。 別上 13週			11週	表現	(七)自分の起	趣味を紹介してみよう	課題に対応した「ポスター」を	を製作できる。	i	
13週		4thO	12週	評論	(六) 「知る]ことと「わかる」こと	理解できる。また、論理的な	とづいて論旨 文章の代表的	で客観的に 構成法を理	
15担			13週	評論	(七)「グ□	ーバル化とグローバリズム」	同上			
15週			14週	評論	(八)「自然	と人間関係をとおして考える」	同上			
正子ルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 対理			15週	小説	(四)良識派		方を表現に即して読み取り、			
分野 学習内容 学習内容の到達目標 海運的は文章(高級や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約で 2			16週							
議場的な文章(議総や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約で 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	モデルコ	アカリキ	<u>-ュラ</u> /	ムの学習	内容と到達	主目標				
直径 1 日本	分類		分	野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
議議的は文章(論談や評論)に構成や展開を的確にとらえ、要約で 2 (展開を的確にとらえ、要約で	2		
論理的以文質(論談・評論)に表された表えに対して、その論拠の 2 当理的以文質(論談・評論)に表されることができる。 論理的以文質(論談・評論)に表された人でできる。 2 学的以文質(別談・別事)に関いて、その論拠の 2 文字的以文質(別談・別事)に関いて、その論拠の 2 文字的以文質(別談・別事)に関いて、その論拠の 2 文字的以文質(別談・別事)に関いて、活力の意見を述べることができる。 2 文字的以文質(別歌・別事)に描かれて、対象・ものの男がを表現に 2 即して読み取り、自分の意見を述べることができる。 2 常用漢字の音調を正く(使える、主な和用漢字が書ける。 2 常用漢字の音調を正く(使える、主な和用漢字が書ける。 2 対義語・以義語を思考・表現に活用できる。 2 対義語・以義語を思考・表現に活用できる。 2 対義語・以義語を思考・表現に活用できる。 2 対義主意で使われている故事成語・領用句の意味や内容を説明で 2 きる。 2 社会生活で使われている故事成語・領用句の意味や内容を説明で 2 きる。 2 社会生活で使われている故事成語・領用句の意味や内容を説明で 2 きる。 3 世界の力野に関する用語を思考や表現に活用できる。 2 世界の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 2 世界の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 2 世界の公女官(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体験や語句 2 世界いて作成できる。 2 世界の首的に応じて、印刷物、インターネットから適切な 2 情報を収集できる。 3 では、メールを、相手や目的に応じた体験や語句 2 を用いて作成できる。 3 に、メールを、相手や目的に応じた体験や語句 2 は、大に情報を分析し、目的に応じて整理できる。 2 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 2 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 2 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 2 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 2 に変しの構造や原理を主人に「情報を対することができる。 2 に対してを語ることができる。 2 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 課題にのし、根拠に基づいて議論できる。 2 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 に対して、根拠に基づいて議論できる。 2 に対して、根拠に基づいて議論である 2 に対してを記してを知じしての思い 2 前16						論理的な文章(論説や評論)の構成や	展開を的確にとらえ、要約で	2		
						論理的な文章(論説や評論)に表され	 た考えに対して、その論拠の たばなることができる。	2		
要等的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に 2 後15 文字的な文章(小説や随筆)に描かれた人物できる。 2 後15 別上で読み取り、自分の意見を述べることができる。 2 第用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 2 類義語・対義語を思考や表現に利用できる。 2 類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 2 対会生活で使われている故事成語・関用句の意味や内容を説明で 2 さる。 2 専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 2 東用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句 2 結合・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な 2 情格・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な 2 情格・論文の目的に応じて、日刷物、インターネットから適切な 2 傾抗・論文の目的に応じて、日刷物、インターネットから適切な 2 原籍・論文を整理した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 2 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 2 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 2 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 2 解告・論文を整理した情報を最にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や限例を上上、作成することができる。 2 種語の構成や限例を上上、作成することができる。 2 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 種語のないを表えをまとめることができる。 4 種語のの場やまえを裏とめることができる。 4 種語のは単位としての思い 2 前16 できるを思していましたの思いを表えをまとめることができる。 4 種語のは単字を表書を表していまいと 2 前16 できるをまたを記していました。 2 前16 できるをまたを記していました。 4 種語のの場かまたを記していまいと 2 前16 できるをまたを記していまいと 2 前16 できるをまためることができる。 4 種語のはないまにもないましたが表しましていましたが表しましましていました。 4 種語のはないましたが表しましましていました。 4 種語のはないましたが表しましましていました。 4 種語のはないましたが表しましましましましましましましましましましましましましましましましましましま						論理的な文章(論説や評論)に表され				
文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に 2 後15 即して読み取り、自力の意見を述べることができる。 2 常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 2 類義語・対義語を思考や表現に満用できる。 2 類義語・対義語を思考や表現に満用できる。 2 対会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明で 2 きる。 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明で 2 きる。 2 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明で 2 きる。 専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 2 専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 2 専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 2 東用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句 2 東用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句 2 東田いで作成できる。 実用的に応じて、印刷物、インターネットから適切な 2 情報を収集できる。 報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な 2 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 2 収集した情報を分析し、目的に応じて発達できる。 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2						文学的な文章(小説や随筆)に描かれ	2	後15		
# 開漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 2						文学的な文章(小説や随筆)に描かれ		2	後15	
常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 2								2		
理験語・対義語を思考や表現に活用できる。 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2										
現義語・対義語を思考や表現に活用できる。 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。 専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。 報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切なき情報を収集できる。 報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切なき情報を収集できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 収集・論文を整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるままらに論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。 報告・論文を整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるままらに論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。 保成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に回題発表することができる。 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に回題発表することができる。 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に回題発表することができる。 相手の立場や考えを尊重しつう、議論を通して集団としての思いを考えを記ることができる。 相手の立場や考えを尊重しつう、議論を通して集団としての思いを考えをも思想となることができる。 相手の立場や考えを尊重しつう、議論を通して集団としての思いを考えをも思想となることができる。 相手の立場や考えを尊重しつう、議論を通して集団としての思いを表えをも思想となることができる。 は書きの立場や考えを尊重しつう、議論を通して集団としての思いを表えをも思想となることができる。 は書きの立場が表えを考しませ、この理解となりまままを表現										
社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。 専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。 実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。 において作成できる。 を表文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。 ・ 「報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。 ・ 「現集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 ・ 「収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 ・ 「なっ」を理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成するごとができる。 ・ 「なっ」を理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成するごとができる。 ・ 「作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。 ・ 「作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。 ・ 「作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。 ・ 「作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。 ・ 「ないて議論できる。 ・ 「課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 ・ 「課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 ・ 「報告を通して集団としての思いな考えを事重しつつ、議論を通して集団としての思いな考えを事まとめることができる。 ・ 「おいて集団をして、またままままままままままままままままままままままままままままままままままま										
主続いの能力 大文・社会 村学・社会 国語						社会生活で使われている故事成語・				
専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 2 実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句 2 を用いて作成できる。 実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句 2 を用いて作成できる。 実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句 2 を用いて作成できる。 報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な 2 報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な 2 収集した情報を収集できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 2 収集した情報を対析し、目的に応じて整理できる。 2 収集した情報を対析し、目的に応じて整理できる。 2 収集した情報を基にして、主張が効果的に伝わる 2 収集した論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。 収集した情報を基にして、主張が効果的に伝わる 2 収集した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口 2 頭発表することができる。 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口 2 頭発表することができる。 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 1 1 1 1 1 1 1 1 1						社会生活で使われている故事成語・	慣用句の意味や内容を説明で	2		
国語 国							現に活用できる。	2		
国語						専門の分野に関する用語を思考や表	現に活用できる。	2		
を用いて体できる。 報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。 報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 2 収集した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。 報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 コートの立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。 和手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。 和手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いた考えをまとめることができる。 ロートの立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いた考えをまとめることができる。	++T++ 1L 11L 1	人文・対	├会	- -			手や目的に応じた体裁や語句	2		
情報を収集できる。 報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 2 収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 2 報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。 報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	基礎的能力	科学		語	国語	実用的な文章(手紙・メール)を、相	手や目的に応じた体裁や語句	2		
情報を収集できる。							、インターネットから適切な	2		
収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。 2 報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わる ように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。 3 報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わる ように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。 4 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口 頭発表することができる。 6 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口 頭発表することができる。 7 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 7 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 7 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 7 記書を書きとめることができる。 8 課題に応じ、根拠に基づいて議論を通して集団としての思い 7 で考えをまとめることができる。 8 前16 を考えをまとめることができる。 7 前16 を考えをまとめることができる。 8 前16							、インターネットから適切な	2		
報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 前16 や考えをまとめることができる。 2 前16 相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。 2 前16						収集した情報を分析し、目的に応じ	て整理できる。			
ように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。								2		
ように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 理題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 は書の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。 相手の立場や考えを尊重しつう、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。 をおえをまとめることができる。 ないまたができる。 ないまたができる。						報告・論文を、整理した情報を基に ように論理の構成や展開を工夫し、	して、主張が効果的に伝わる 作成することができる。	2		
頭発表することができる。 2 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。 2 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。 2 相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。 2 相手の立場や考えを尊重しつう、議論を通して集団としての思いできる。 2 ボナンジャルをあることができる。 2						報告・論文を、整理した情報を基に ように論理の構成や展開を工夫し、	して、主張が効果的に伝わる 作成することができる。	2		
作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。 2 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いで考えをまとめることができる。 2 相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いで考えをまとめることができる。 2 ボナン深想があることができる。 2						作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口		2		
課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。 2 相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いで考えをまとめることができる。 2 相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いできる。 2 ボナンジャラのファールを表して無いできる。 2						作成した報告・論文の内容および自	分の思いや考えを、的確に口	2		
相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思い 2 前16 や考えをまとめることができる。 相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思い 2 前16 できる。 アルトンを担かめることができる。							きる。			
や考えをまとめることができる。								2		
や考えをまとめることができる。 グナンジャルサスの根上の理解に放け、ウハの用いたまます数理						や考えをまとめることができる。		2	前16	
新たた発相や曲者の知らの理解に奴が、自分の思いや考えを教理						相手の立場や考えを尊重しつつ、議 や考えをまとめることができる。	論を通して集団としての思い	2	前16	
するための手法を実践できる。 前2							め、自分の思いや考えを整理	2	前2	

				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理	2	前2
				するための手法を実践できる。	2	
				日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。 日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2	
					2	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で 正しい文章を記述できる。	2	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で 正しい文章を記述できる。	2	
				世紀 世紀 世紀 世紀 世紀 世紀 世紀 世紀	2	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させ		
				ることができる。	2	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相 づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	2	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相 づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	2	
				ひら、繰り返し、パティーフンケーシなと)。 他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	前4
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	前4
				で音の息光を削さら息が成することができる。 合意形成のために会話を成立させることができる。	2	前4
				白息形成のために云前を成立させることができる。 合意形成のために会話を成立させることができる。	2	前4
				台息形成のために会話を成立させることができる。 グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実		HUH
				践できる。	2	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	2	後10
	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集がで	2	後10
				きる 海粉の桂根を敷理、様準ルできる	2	
				複数の情報を整理・構造化できる。	2	
				複数の情報を整理・構造化できる。		
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2	
分野横断的 能力 				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析の ために効果的な図や表を用いることができる。	2	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	前11
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	前11
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・ 合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等	2	
				の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	2	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・ 合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等	2	
				の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	_	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる	2	
				。 どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる	2	
				0 VY LULY (M. 1971) - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -		
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	2	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	2	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	2	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	2	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	2	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現でき る。	2	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができ	2	
				る。 		
	態度・志向 性(人間力)	態度・志向 性	態度・志向 性	チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他 者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができ る。	2	
	, ,			©。 当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる	2	
				0		
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	

		-	チームのメンバーと	としての役割を把握	と した行動ができる	。 2	
評価割合							
	試験	課題提出	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	30	0	10	0	0	100
基礎的能力	60	30	0	0	0	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	10	0	0	10